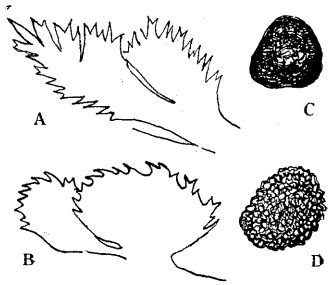
Spec. Exam.: Mt. Kaikoma in southern Alps, Nagano Pref.; ca. 2700 m alt.; on humus covering granite, associated with *Plagiochila semidecurrens* (f. *undulata*), *Dicranum* sp., *Macrodiplophyllum plicatum*, and some mosses; *H. Inoue*, July 27, 1968. Previously known only from Mts. Tanigawa in Japan.

日本では群馬県谷川連峰から最近記録された顕著な苔類であるが，南アルプス駒ケ岳で発見した。ヨーロッパのもので記載されている油体と多少異なるので上のように南アルプスのものについて記載しておいたが，谷川岳のものでも同様である。

○アカハナワラビについて（行方富太郎）

Some notes on *Botrychium nipponicum* Makino.



本誌第5号に西田誠氏の「アカハナワラビの再認識」という論文が出たので，この機会にアカハナワラビとオオハナワラビ（*B. japonicum* Underw.）との区別点についての私の観察を次の表にまとめてみた。

（千葉県成田市日本シダの会）

アカハナワラビ	オオハナワラビ
(1) 羽片の幅は狭長で，裂片の鋸歯は切込みが深く鋭角をなし脈は顕著に葉面に現れる（図 A）。	(1) 羽片の幅は広く裂片の鋸歯は切込みが浅く鈍角で脈は顕著でない（図 B）。
(2) 草性軟弱で実葉柄は降霜期に入ると枯れて倒伏する。	(2) 草性強剛で実葉柄は冬季中枯れず翌春4月まで立つている。往々前年の裸葉まで残存していることがある。
(3) 冬季における裸葉の紅変は，葉の表面裏面葉柄に及び，色は黒紫紅色を呈し，単にこの色調だけでも区別は明かである。	(3) 冬季裸葉が紅変するが，多くは葉縁に止まり稀に中心に及ぶものでも色は赤褐色を呈し葉の裏面と葉柄とは緑色である。
(4) 胞子の皺は極めて細かく周辺は全円である（図 C）。	(4) 胞子には荒い皺があって周辺に微細な凹凸を生ずる（図 D）。
(5) 分布：温帯性で日本中部から関東地方に稀に分布する。	(5) 分布：暖帯性で日本中部・関東にも分布するが西南地方に多産する。